

日野の里を舞台に 歌い上げた命の賛歌

日野町民ミュージカル公演「ゆめ見るふるさと 金持神社〜後醍醐天皇の道」



金持青年会による獅子舞も登場



明るく圓つく目を目指す後醍醐天皇



仲間のために祈る子どもたち



別かれ合うハッチと嶋



客席に笑顔振りまく



11月22日、日野町制50周年記念第8回町民ミュージカル「ゆめ見るふるさと」が、町文化センターで上演されました。

今回は、町内を中心に小学生から大人までの29人が出演、半年間の練習の成果を披露しました。

内容は、南北朝時代、隠岐の島から脱出した後醍醐天皇が、都を目指し日野の里から再出発するまでを、隠岐と日野の子どもたちの成長を通して描いた創作ミュージカル。

出演者は、大きな声で歌い踊り、それぞれの役を見事に表現。満員の客席の感動を呼び、大きな拍手が送られました。



金持真藤(左)と池田博監



隠岐の島の若者のリーダー、ハッチ



仲間のきずなを確かめ合う



大人の出演者も熱演



奇抜なメイクの死神トク



金持神社の祭神、天之常立尊あめのとこしちのみこと



希望に向かって旅立った子どもたち



隠岐の島の娘、嶋



カーテンコールは町民歌『きりりんの町』



軽快なダンス



練習重ねた元気の歌声



金持神社の巫女たち



仲間の死の悲しみを表現



命の大切さを訴える



客席まで心が届くように

